取扱説明書

屋外用熱対策通信キャビネット ファン仕様　RCP-Y-F、RCP-T-F、RCJ-Y-F type
ステンレス屋外用熱対策通信キャビネット ファン仕様　SRCP-Y-F、SRCJ-Y-F type

お買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
この説明書は、必ず保管してください。

もくじ

安全上のご注意 …… P.1
■施工上のご注意 …… P.1
■吊り上げ時のご注意 …… P.2
■換気扇付ステンレス製ルーバーに対する施工上のご注意 …… P.2
■使用上のご注意 …… P.3
■換気扇付ステンレス製ルーバーに対する使用上のご注意 …… P.3
■ファンに対するご注意 …… P.4
■各部の名称・仕様 …… P.4
●キャビネット …… P.4
●付属品 …… P.5
●取付機器搭載可能質量 …… P.5
●換気扇付ステンレス製ルーバー …… P.5
●可変式温度調節器ユニットタイプ（PTV-M61AU） …… P.5
■設置方法 …… P.6
■吊り上げ方法 …… P.6
●ポール用（(S)RCP） …… P.6
●自立用（(S)RCJ） …… P.6
■取付方法 …… P.7
●ポール用（(S)RCP） …… P.7
●自立用（(S)RCJ） …… P.7
■水抜き孔栓の取付方法（(S)RCP） …… P.8
■遮光板の取外方法 …… P.8
●遮光板側面・前・後 …… P.8
●遮光板屋根（(S)RCP） …… P.8
●遮光板屋根（(S)RCJ） …… P.9
■マウントアングル・マウントレールの前後移動について …… P.9
●移動方法 …… P.9
■可変式温度調節器ユニットタイプ（PTV-M61AU） …… P.10
●温度設定方法 …… P.10
●動作 …… P.10
●故障と判断される前に …… P.10
■換気扇付ステンレス製ルーバーの保守点検 …… P.11
●フィルターの交換方法 …… P.11
●フィルターの清掃方法 …… P.12
●ファンの交換方法 …… P.12
■オプション …… P.12
■推奨品 …… P.12

安全上のご注意

安全にお使いいただくための注意事項を説明しています。必ずお守りください。
なお、有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。

⚠警告	死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
⚠注意	軽傷または中程度の傷害を招くおそれがある危険な状況および物的損害の発生するおそれがある場合を示します。

お守りいただく内容を次の図記号で区分しています。

⚠ 注意する
🚫 してはいけない
❗ 必ず守る

■施工上のご注意

⚠警告

アースせよ	接地端子を利用して、アース接続を必ず行ってください。感電の原因になります。	❗	ポール用製品【(S)RCP】の装柱には、十分な強度のあるポールなどに確実に固定してください。落下・けが・機器の故障の原因になります。
🚫	キャビネットの天井面を足場にして作業しないでください。キャビネット・遮光板が変形し、落下・けがの原因になります。		電気工事（取付、施工）は有資格者が行ってください。故障・感電・けがの原因になります。
❗	ポール用製品【(S)RCP】の装柱には、必ずオプション「冷キャビ用・ポール用金具【RCPX-Y(T)A】」を使用してください。落下・けが・機器の故障の原因になります。また、側面の取付穴より水が浸入し、故障・感電・火災の原因になります。		電気工事は「電気設備技術基準」および「内線規程」を厳守し、必ず専用の電源回路としてください。故障・感電・けがの原因になります。
			電線接続の際、端子ねじは確実に締め付けてください。発熱・火災の原因になります。

⚠注意

🚫	自立用製品【(S)RCJ】をポール取り付けしないでください。下側からキャビネット内部に水が浸入し、機器の故障・けがの原因になります。	🚫	本製品に落下などの強い衝撃を与えないでください。ヘコミや歪みが発生し、強度の低下の原因になります。
	機器取り付けの際、搭載可能質量を超えて取り付けないでください。マウントユニットまたはマウントアングルが変形し、機器の落下・故障・けがの原因になります。（キャビネットへの取付機器の搭載可能質量は、P.5「●取付機器搭載可能質量」を参照）		遮光板への過剰な荷重は避けてください。変形するおそれがあります。
	10m/s 以上の強風時に施工作業をしないでください。強風によりドアが脱落するおそれがあります。		下面開口プレートに機器や物を載せたり、人が乗らないでください。下面開口プレートが変形し、けがの原因になります。
			水抜き孔栓（付属品）を取り付けた状態で、運送および底面を下にした状態で引きずることをしないでください。水抜き孔栓（付属品）が破損するおそれがあります。

⚠注意

アングルなどを使って設置面を上げる際は、シーリングなど水の浸入対策を施してください。キャビネット内部に水が浸入するおそれがあります。

強風を受ける場所、振動がある場所で使用する場合は、別途ゆるみ止め対策を施してください。破損・落下、所定の IP 性能が得られないなどの原因になります。

積雪時に本製品が埋没しない場所、高さに取り付けてください。故障・換気能力低下、所定の IP 性能が得られないなどの原因になります。

使用するねじなどは指定されたものを使用してください。
取り付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。
締め付けが不十分な場合、破損・落下、所定の IP 性能が得られないおそれがあります。また、締め付け過ぎの場合は、製品を破損させる原因になります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m※1
端子ねじM4	1.2～1.8
溶接ナットM5取付用 ±3点セムス六角ボルトM5×10	2.0～2.5
遮光板屋根取付ねじM5×10	1.8～2.9
遮光板取付タッピンねじM6×14	2.9～4.4
遮光板取付ねじM6×12	
+タッピンねじM6×12	
±3点セムス六角アースボルトM8×12	5.5～7.0※2

※1 ただし、タッピンねじにおいて締め付け時の初期トルクはこの限りではありません。
※2 ドライバー以外の工具で締め付けるねじは 8.0 ～ 13.0N・m

設置の際は、再度、遮光板固定部を適正締付トルクにて締め付けてください。締め付けが不十分な場合、遮光板の脱落などによりけがのおそれがあります。

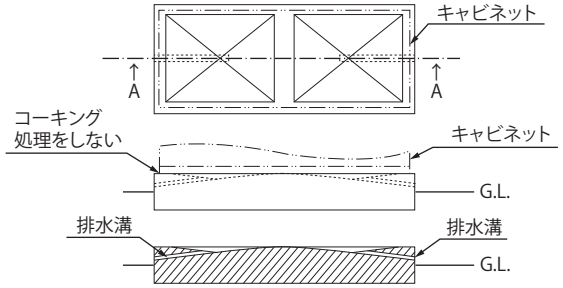
重量物は低い位置に設置し、重心位置を低くしてください。転倒・破損・けがの原因になります。

設置を行う際は、必ず 2 人以上で作業を行ってください。
けがの原因になります。

キャビネット本体が水平に設置できるようにレベル調整を行ってください。ドアの開閉や機器の搭載に支障をきたすおそれがあります。

自立用製品【(S)RCJ】は、コンクリート基礎と基台の間にコーキング処理はしないでください。キャビネット内部に雨水などが溜まり、結露や錆の原因になります。
(排水溝施工の一例図を参照)

自立用製品【(S)RCJ】は内部に雨水が溜まるのを防ぐため、コンクリート基礎に排水溝を設けてください。また、排水溝の流出口には金網を張るなどして小動物の侵入を防止してください。機器の故障の原因になります。



断面A－A
排水溝施工の一例

自立用製品【(S)RCJ】は必ず水平な床面に設置してください。床面が水平でないとドアがひずみ、IP 性能を保持することができなくなり、機器の故障の原因になります。
また、ドアのひずみにより開閉しづらくなり、けがにつながるおそれがあります。

自立用製品【(S)RCJ】のアンカーボルトは必ず M12 を使用してください。転倒・破損・機器の故障やけがの原因になります。

自立用製品【(S)RCJ】は所定のアンカーボルト以外にも必要に応じ転倒防止などの処理を行ってください。地震時に転倒するおそれがあります。

工事完了後は、引込口・排気口の周辺より漏水のないように配慮してください。また、漏水により内部に雨水が溜まると、機器の故障の原因になります。

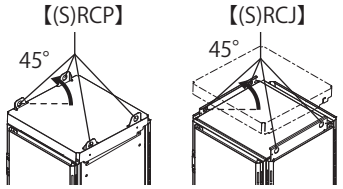
水抜き孔栓（付属品）は必ず取り付けてください。雨水が浸入するおそれがあります。

■吊り上げ時のご注意

⚠注意

本製品を連結した状態で吊り上げ作業は行わないでください。
変形・落下・けがの原因になります。

本製品を吊り上げる場合には、必ず 4 か所で吊り上げ、天井の水平面に対して 45°以上の角度で均一な荷重にしてください。
2 か所での吊り上げや、45°未満の吊り上げ角度・搭載可能質量オーバー・吊り金具を使用しない吊り上げ（本体に直接ワイヤー、スリングを掛けての吊り上げなど）は落下・破損・けがの原因になります。
（キャビネットへの取付機器の搭載可能質量は、P.5「●取付機器搭載可能質量」を参照）



■換気扇付ステンレス製ルーバーに対する施工上のご注意

⚠警告

分解禁止

分解、改造や本体へ穴開けなどの二次加工はしないでください。故障・感電・けがの原因になります。

電源には使用する電線サイズに適した漏電ブレーカ（感度電流 30mA 以下）を選定し取り付けてください。
故障・感電の原因になります。

電源線がファンに巻き込まれないように、結束バンドなどで固定してください。故障・感電の原因になります。

■使用上のご注意

⚠警告

本製品の故障が原因で人命ならびに社会的に重大な影響を与えるおそれがある場所には使用しないでください。

次のような場所では使用しないでください。
故障・感電・火災の原因になります。
- 可燃性ガスのある場所
- 可燃性ガスが漏れるおそれのある場所
- 常時高湿となる場所　・有機溶剤のかかる場所
- 腐食性ガスのある場所
- 導電性粉塵（カーボン繊維、金属粉など）のある場所

長期間の使用で取付部などの傷みやゆるみがないか、定期的に点検してください。傷みがある場合は交換し、ゆるみがある場合は適正締付トルクにて締め付けてください。破損・落下、所定の IP 性能が得られないなどのおそれがあります。

⚠注意

指に注意

ハンドルを閉める際は、根元まで指を入れないでください。
指を挟み、けがの原因になります。



ドアを勢いよく閉めないでください。指を挟みけがの原因になります。

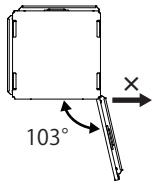
製品の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
キャビネット・遮光板が変形し、落下・けがの原因になります。

次のような場所では使用しないでください。
故障・誤動作の原因になります。
- 使用温度範囲外となる場所
- 振動、衝撃のある場所
- 塩分が多い場所（SRCP、SRCJ を除く）
- 極度に塵埃やオイルミストが多い場所
- ノイズ（電界、磁界）の強い場所

ハンドルのシリンダーにキーを差した状態で、キーに強い衝撃や荷重を掛けないでください。キー・シリンダーの変形・破損の原因になります。

シリンダーの施錠・解錠位置以外では、キーを無理に引き抜かないでください。
キー・シリンダーの破損の原因になります。

ドアの開閉角度は約 103°です。
ドアを開けた状態で右図の矢印方向にさらに荷重を掛けないでください。
蝶番部およびドアの変形・破損の原因になります。



ドア開放時には必ずボデー下に設置されているドアストッパをドアに掛けて固定してください。ドアが閉まり、けがの原因になります。

ハンドルの施錠・解錠する頻度が多い場合は、シリンダーに定期的に鍵用潤滑剤を塗布してください。
キーの抜差しが硬くなるおそれがあります。

ステンレス製品を塩害地域などの特殊環境の場所で使用する場合は、定期的にメンテナンスを行ってください。
腐食により落下・故障・けがの原因になります。

■換気扇付ステンレス製ルーバーに対する使用上のご注意

⚠警告

感電注意

感電の原因になります。
- 通電中は充電部に触らないでください。
- 清掃や保守点検時は必ず電源を OFF にし、電源の供給を止めてください。
- 配線の引っ張り、挟み込みで配線を傷つけたり無理なストレスをかけないでください。

ぬれ手禁止

濡れた手で操作しないでください。
故障・感電の原因になります。

定期的にファンが正常に回転動作するかを確認してください。
正常に回転動作していない状態で放置した場合、発熱・火災・感電の原因になります。

保守点検は専門知識を有する人が定期的に行ってください。
故障・感電・けが・火災の原因になります。

定格電圧でご使用ください。使用電圧は定格電圧の±10%以内です。電源電圧が変動した場合でも使用電圧を超えないようにしてください。故障・感電・火災の原因になります。

異常時（寿命による動作停止、焦げ臭いなど）は電源をOFFにし、電源の供給を止めてください。感電・火災の原因になります。

⚠注意

ファンは精密機器ですので振動、衝撃などを与えないでください。故障の原因になります。

取付キャビネットに対する耐電圧試験を行う場合は、熱関連機器の配線を取り外して行ってください。
故障の原因となります。

使用するねじなどは指定されたものを使用してください。
取り付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。
締め付けが不十分な場合、破損・落下、所定の IP 性能が得られないおそれがあります。また、締め付け過ぎの場合は、製品を破損させる原因になります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m
ルーバー取付ねじ M4×8	1.5～1.8
ファン取付ねじ M4×50	
取付ナット M6	3.0～4.0

■ファンに対するご注意

⚠注意

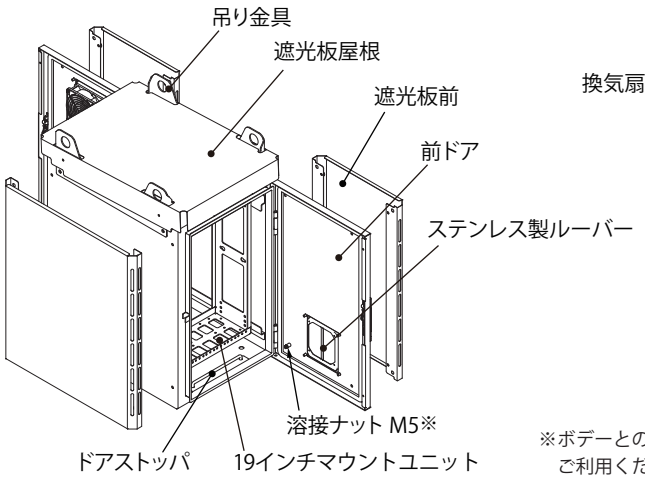
回転物注意

けがの原因になります。
・ルーバー、フィンガーガードを外したまま運転しないでください。
・ファン回転部に指や異物などを絶対に入れないでください。
・保守点検時はファン動作を点検する場合を除き、必ず電源を OFF にし、ファンの羽根の回転が停止してから行ってください。

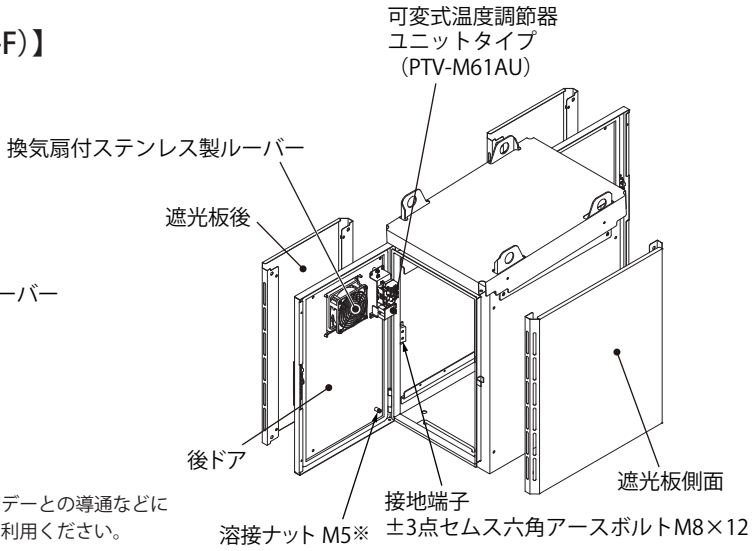
■各部の名称・仕様

●キャビネット

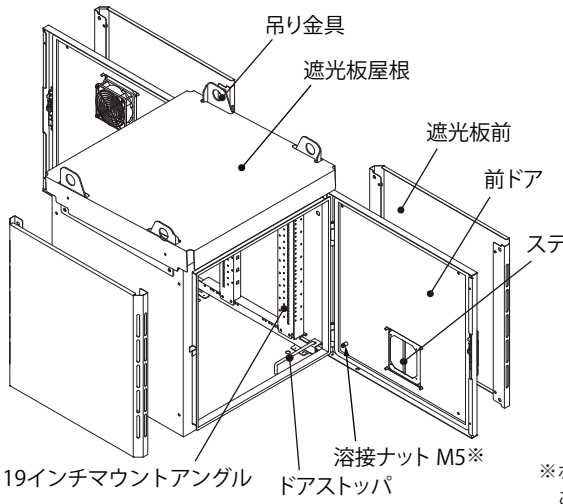
【ポール用・19 インチタテ置きタイプ（RCP-T-F）】



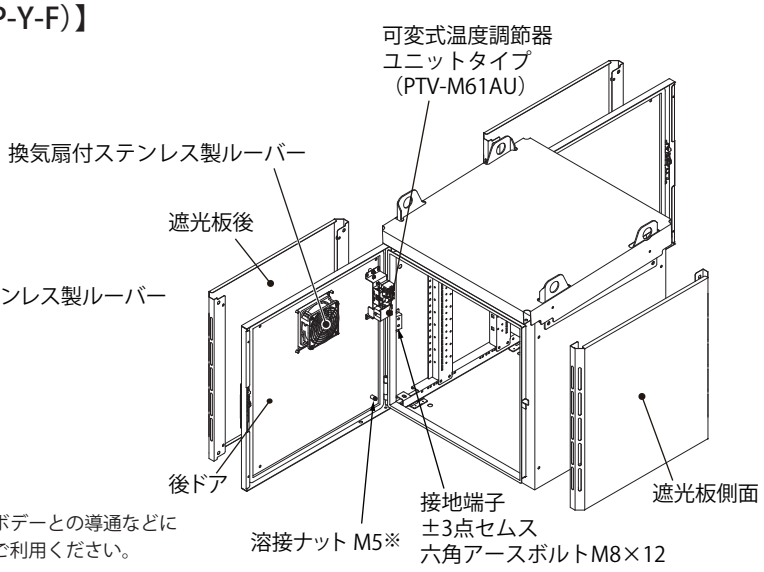
※ボデーとの導通などにご利用ください。



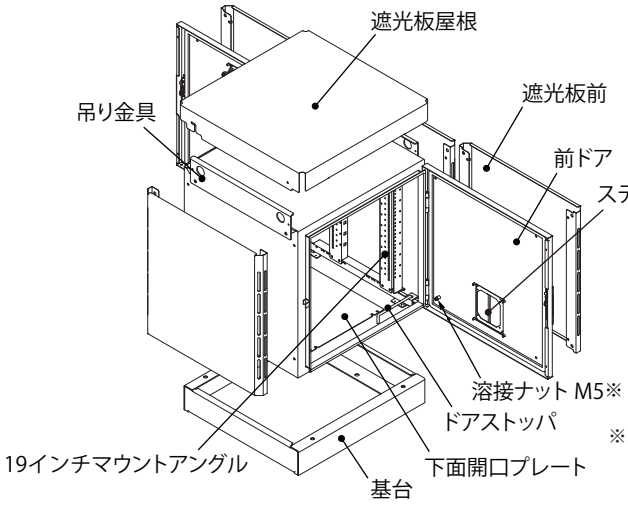
【ポール用・19 インチヨコ置きタイプ（(S)RCP-Y-F）】



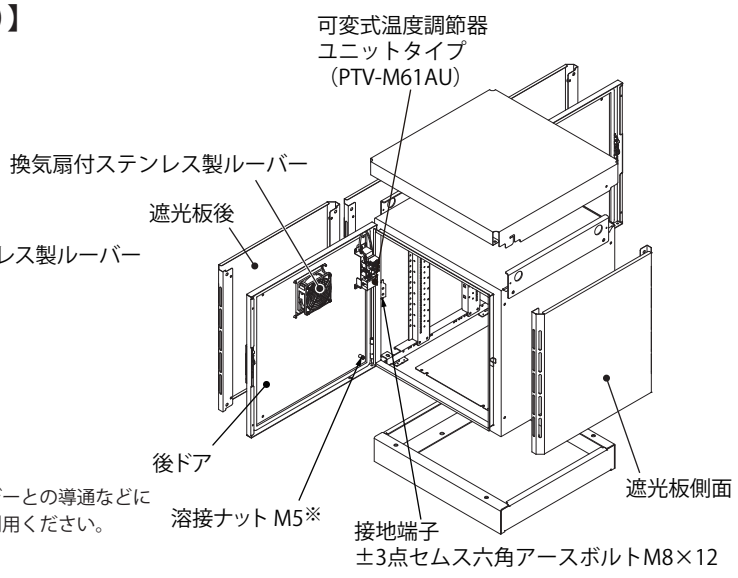
※ボデーとの導通などにご利用ください。



【自立用・19 インチヨコ置きタイプ（(S)RCJ-Y-F）】



※ボデーとの導通などにご利用ください。



●付属品

名称	数量
キー（キーNo.N200）	1コ
砂入りガラス管ヒューズ3A	1コ
水抜き孔栓（(S)RCP）	1コ
屋根注意ラベル	1枚
取扱説明書（本紙）	1部

●取付機器搭載可能質量

【ポール用・19インチタテ置きタイプ（RCP-T-F）】

品名記号	搭載可能質量 kg
RCP60-465T-F1	30

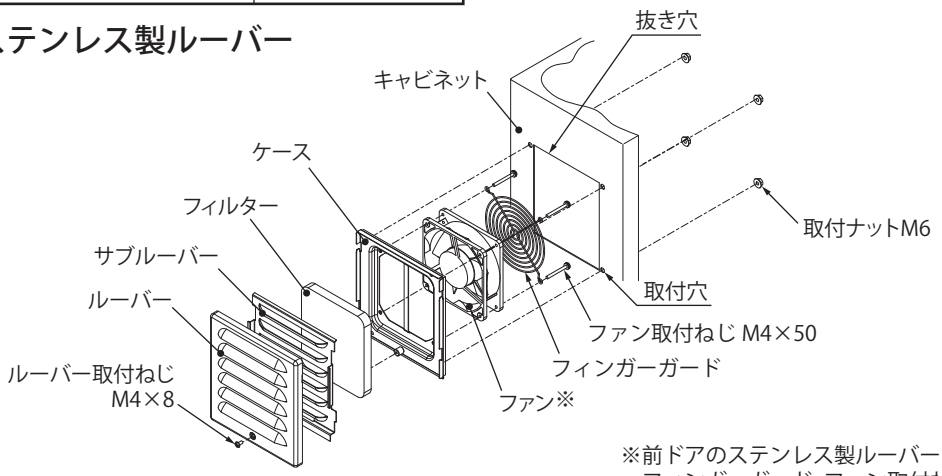
【自立用・19 インチヨコ置きタイプ（(S)RCJ-Y-F）】

品名記号	搭載可能質量 kg
(S)RCJ60-66Y-F1,RCJ60-66Y-F2	60
(S)RCJ60-68Y-F1,RCJ60-68Y-F2	90
(S)RCJ60-610Y-F1,RCJ60-610Y-F2	114

【ポール用・19インチヨコ置きタイプ（(S)RCP-Y-F）】

品名記号	搭載可能質量 kg
(S)RCP60-66Y-F1,RCP60-66Y-F2	60
RCP60-67Y-F1,RCP60-67Y-F2	78
(S)RCP60-68Y-F1,RCP60-68Y-F2	90
RCP60-69Y-F1,RCP60-69Y-F2	102
(S)RCP60-610Y-F1,RCP60-610Y-F2	114

●換気扇付ステンレス製ルーバー



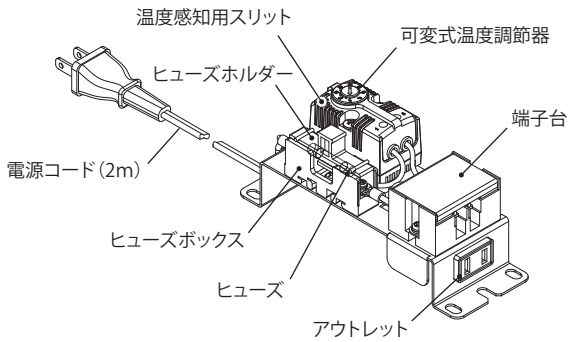
※前ドアのステンレス製ルーバー（SLS-17FR）には、ファン・フィンガーガード・ファン取付ねじを使用していません。

使用温度：-10 ～ +60℃、使用湿度：95%RH 以下、定格周波数：50/60Hz

定格電圧 V（単相）	最大風量 m^3/min※1	最大静圧 Pa※1	定格電流 A	起動電流 A	定格消費電力 W	騒音 dB(A)
AC100	0.93/1.06	87/96	0.28/0.25	0.38/0.33	19/18	約46/49

・上記仕様はファン 1 コあたりの値です。
・フィルターはポリエステル製、厚さ 14mm、除塵率 80%を使用しています。
・騒音は反響の少ない無響音室で測定した値です。現地での据付環境、および反響によって騒音値は大きく影響されますので注意してください。
※1. 最大風量、最大静圧の測定方法は、ダブルチャンバー方式です。

●可変式温度調節器ユニットタイプ（PTV-M61AU）



品名記号	PTV-M61AU
定格電圧 V	単相 AC100
温度設定範囲℃※1	0 ～ +60
ON・OFF 温度幅 K（℃）※2	約 7
温度公差 K（℃） ※2、3	±4
接点形式	a接点（動作時 ON、復帰時 OFF）
	有電圧接点
接点定格	単相 AC125V 50/60Hz 3A 最小電流値　50mA
接点開閉性能※4	10 万回
使用温度範囲℃※1	-10 ～ +55
使用湿度範囲%RH	90 以下（結露および氷結なきこと）
製品質量 g	約 320

※1. 温度設定範囲は 0 ～ +60℃ですが、使用温度範囲内でご使用ください。
※2. ON・OFF 温度幅および温度公差は、温度変化速度 1℃/5 分間（無負荷時）の測定条件での値です。
※3. 温度公差は、設定温度および ON・OFF 温度幅に対する値です。
※4. 接点開閉性能は、負荷の種類、開閉頻度、開閉位相、周囲温度、周囲湿度などにより異なります。

■設置方法

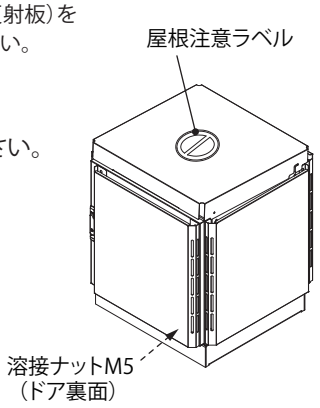
・保守点検の容易な場所に取り付けてください。
・周囲温度 -10 ～ +60℃の場所に設置してください。

ご注意
・周囲温度が使用環境温度上限（60℃）を超えない場所でも、輻射熱を直接受ける場所では遮蔽板（断熱材・反射板）を設けてください。また、遮蔽板で換気扇付ステンレス製ルーバーの吸、排気口を塞がないようにしてください。
・設置温度の換気が悪く、換気扇付ステンレス製ルーバーの運転により周囲温度が高くなる場合でも、使用環境温度上限（60℃）を超えないようにしてください。

・内部機器の取り付けは、19 インチマウントユニットまたはマウントアングルに確実に固定してください。

ご注意
・換気扇付ステンレス製ルーバーおよびステンレス製ルーバーの吸・排気口の通風を妨げないように取り付け位置に注意してください。換気能力低下の原因になります。

・前後左右とも傾きがないよう（±2°以下）に、水準器などで確認してください。
・溶接ナット M5 はボデーとの導通などにご利用ください。
・「屋根注意ラベル（付属品）」を遮光板屋根に貼り付けて、作業足場に使用しないように注意を促してください。

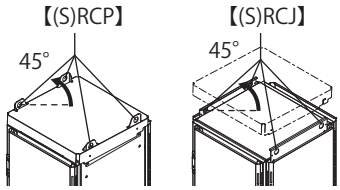


■吊り上げ方法

⚠注意

本製品を連結した状態で吊り上げ作業は行わないでください。
変形・落下・けがの原因になります。

本製品を吊り上げる場合には、必ず 4 か所で吊り上げ、天井の水平面に対して 45°以上の角度で均一な荷重にしてください。
2 か所での吊り上げや、45°未満の吊り上げ角度・搭載可能質量オーバー・吊り金具を使用しない吊り上げ（本体に直接ワイヤー、スリングを掛けての吊り上げなど）は落下・破損・けがの原因になります。
（キャビネットへの取付機器の搭載可能質量は、P.5「●取付機器搭載可能質量」を参照）



●ポール用（(S)RCP）

吊り金具の穴を用いて製品を吊り上げてください。

●自立用（(S)RCJ）

1. 遮光板屋根を取り外します。（図 1）
（1）取付ねじ（4 か所）を取り外してください。
（2）遮光板屋根を取り外して吊り金具を露出させてください。
ご注意 取り外しの際は、遮光板屋根が落下しないように手で支えてください。
2. 吊り金具の穴を用いて製品を吊り上げてください。
3. 製品の設置後、遮光板屋根を再度取り付けます。
（1）遮光板屋根を低くしたい側（傾斜の後側）の吊り金具の取付穴に、取付ねじを、隙間を 3mm 程度残して仮締めしてください。（2 か所）（図 2）
（2）仮締めした取付ねじに、遮光板屋根の切欠き部を図 3 の①、②の順にはめ込んでください。（図 3）
（3）切欠き部の反対側にある穴に、取付ねじを取り付けてください。（2 か所）（図 4）
（4）仮締めした側の取付ねじを締め切ってください。（図 4）

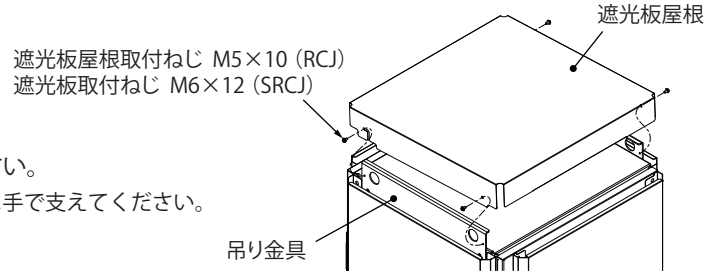


図1

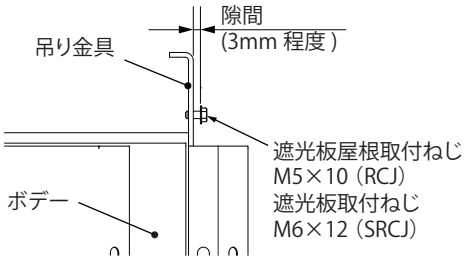


図2

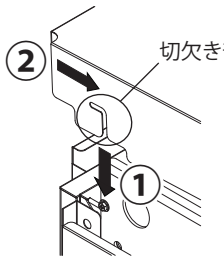


図3

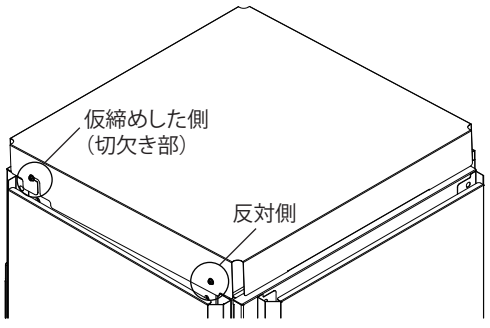


図4

⚠注意

使用するねじなどは指定されたものを使用してください。取り付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。締め付けが不十分な場合、破損・落下、所定の IP 性能が得られないおそれがあります。
また、締め付け過ぎの場合は、製品を破損させる原因になります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m
遮光板屋根取付ねじM5×10	1.8～2.9
遮光板取付ねじM6×12	2.9～4.4

■取付方法

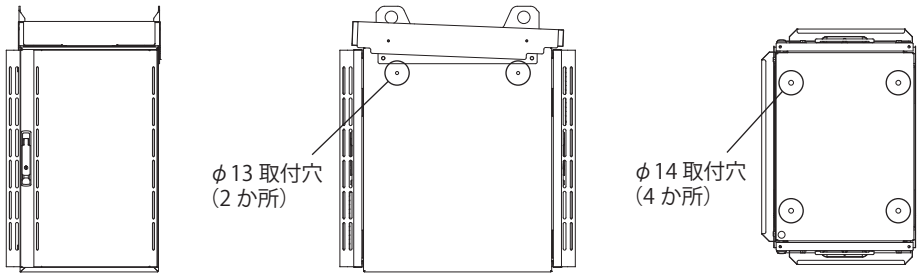
●ポール用（(S)RCP）

⚠警告

- ポール用製品【(S)RCP】の装柱には、必ずオプション「冷キャビ用・ポール用金具【RCPX-Y(T)A】」を使用してください。落下・けが・機器の故障の原因になります。また、側面の取付穴より水が浸入し、故障・感電・火災の原因になります。
- ポール用製品【(S)RCP】の装柱には、十分な強度のあるポールなどに確実に固定してください。落下・けが・機器の故障の原因になります。

本製品の装柱用に、オプション「冷キャビ用・ポール用金具【RCPX-Y（T）A】」の取付穴があらかじめ加工されています。
取付方法については、「冷キャビ用・ポール用金具 RCPX-Y（T）A type」取扱説明書（別紙）を参照してください。

・ボデー右側面：φ13（2 か所）
・ボデー底面　：φ14（4 か所）



正面　　右側面　　底面

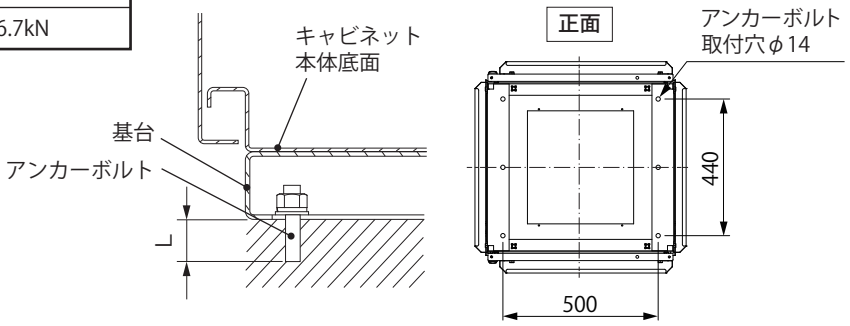
●自立用（(S)RCJ）

基台底面のアンカーボルト取付用穴φ14（4 か所）に、M12 アンカーボルトで床面に固定してください。

アンカーボルト径	最小埋込深さ L mm※	短期許容引抜荷重※
M12	60	6.7kN

※一般的な床スラブ上面での
あと施工金属拡張アンカーボルト（おねじ形）
使用時における参考値です。
設置場所、アンカーボルト種類によって
値は大きく変わります。

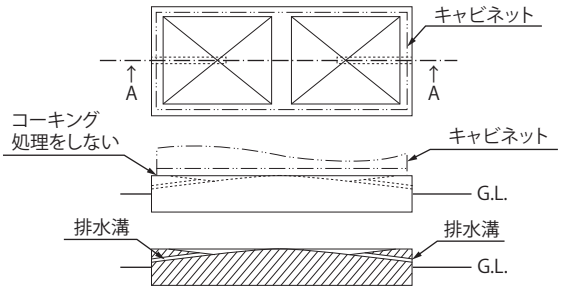
（単位：mm）



あと施工アンカー施工例　　取付寸法図

⚠注意

- アングルなどを使って設置面を上げる際は、シーリングなど水の浸入対策を施してください。キャビネット内部に水が浸入するおそれがあります。
- 下面開口プレートに機器や物を載せたり、人が乗らないでください。下面開口プレートの変形・けがの原因になります。
- キャビネット本体が水平に設置できるようにレベル調整を行ってください。ドアの開閉や機器の搭載に支障をきたすおそれがあります。
- 設置を行う際は、必ず 2 人以上で作業を行ってください。けがの原因になります。
- 自立用製品【(S)RCJ】は必ず水平な床面に設置してください。床面が水平でないとドアがひずみ、IP 性能を保持することができなくなり、機器の故障の原因になります。
  また、ドアのひずみにより開閉しづらくなり、けがにつながるおそれがあります。
- 自立用製品【(S)RCJ】のアンカーボルトは必ず M12 を使用してください。転倒・破損・機器の故障やけがの原因になります。
- 自立用製品【(S)RCJ】は所定のアンカーボルト以外にも必要に応じ転倒防止などの処理を行ってください。地震時に転倒するおそれがあります。
- 自立用製品【(S)RCJ】は、コンクリート基礎と基台の間にコーキング処理はしないでください。キャビネット内部に雨水などが溜まり、結露や錆の原因になります。
  （排水溝施工の一例図を参照）
- 自立用製品【(S)RCJ】は内部に雨水が溜まるのを防ぐため、コンクリート基礎に排水溝を設けてください。また、排水溝の流出口には金網を張るなどして小動物の侵入を防止してください。機器の故障の原因になります。



断面A－A
排水溝施工の一例

- 工事完了後は、引込口・排気口の周辺より漏水のないように配慮してください。また、漏水により内部に雨水が溜まると、機器の故障の原因になります。

【床面の調整方法】

床面が水平でなくドアにひずみが生じた場合は、スペーサなどにより設置面が水平になるように調整してください。

調整方法

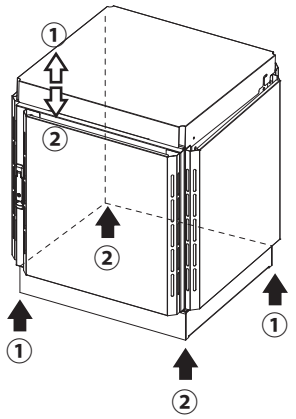
ドアが⇧①の方向にひずんだ時は、

⬆①の箇所のどちらか一方にスペーサなどを入れてください。

ドアが⇩②の方向にひずんだ時は、

⬆②の箇所のどちらか一方にスペーサなどを入れてください。

設置面が水平になるように調整してください。



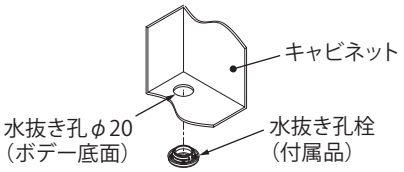
【オプションパーツのご案内】

スペーサには、オプションの「基台用スペーサ」をご利用ください。

名称	品名記号	摘要
基台用スペーサ	BP17-10SU	U 字（アンカーボルト用、t1.0）
	BP17-1030S	50mm 角（t1.0、t3.0）

■水抜き孔栓の取付方法（(S)RCP）

ボデー底面の水抜き孔φ20 へ、水抜き孔栓を外面より確実に押し込んでください。
取り外しは、キャビネット内面より押し出して外します。



⚠注意

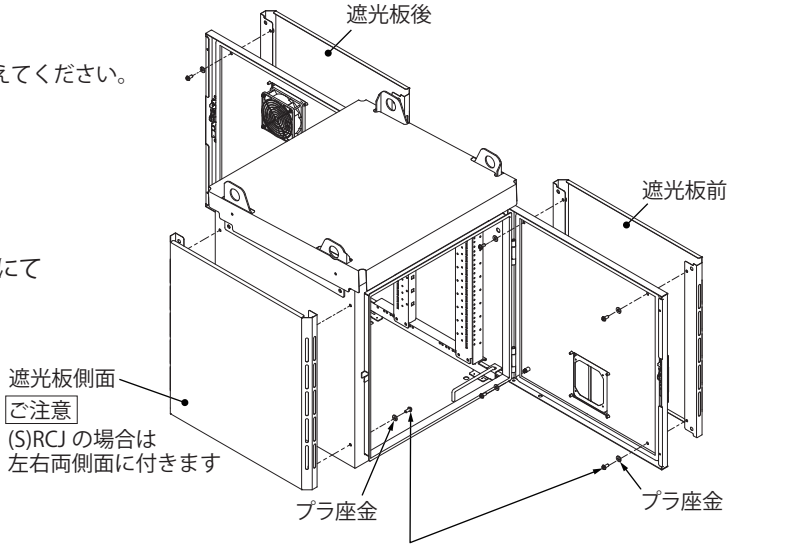
水抜き孔栓（付属品）を取り付けた状態で、運送および底面を下にした状態で引きずることをしないでください。水抜き孔栓（付属品）が破損するおそれがあります。	水抜き孔栓（付属品）は必ず取り付けてください。雨水が浸入するおそれがあります。

■遮光板の取外方法

ご注意　取り外しの際は、遮光板が落下しないように手で支えてください。

●遮光板側面・前・後

1. ボデーまたはドア内側より、取付ねじとプラ座金を取り外してください。
2. 遮光板を取り外してください。
3. 再び遮光板を取り付ける際は、取り外しと逆の手順にて取り付けてください。



●遮光板屋根（(S)RCP）

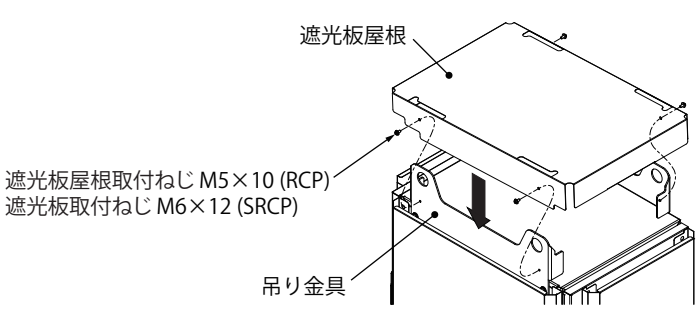
【取外方法】

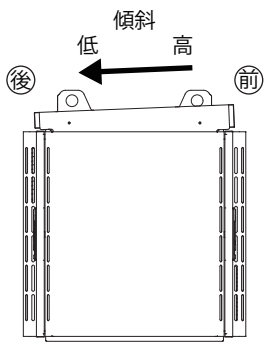
1. 取付ねじ（4 か所）を取り外してください。
2. 遮光板屋根を取り外してください。

【(S)RCP-Y-F】

【取付方法】

後ろ傾斜になるように遮光板屋根を取り付け、取付ねじで固定してください。（4 か所）

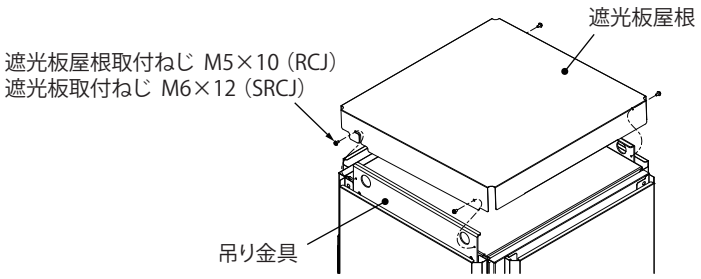




●遮光板屋根（(S)RCJ）

【取外方法】

1. 取付ねじ（4 か所）を取り外してください。
2. 遮光板屋根を取り外してください。



【取付方法】

1. 遮光板屋根を低くしたい側（傾斜の後側）の吊り金具の取付穴に、取付ねじを
   隙間を 3mm 程度残して仮締めしてください。（2 か所）（図 5）
2. 仮締めした取付ねじに、遮光板屋根の切欠き部を図 6 の①、②の順にはめ込んでください。（図 6）
3. 切欠き部の反対側にある穴に、取付ねじを取り付けてください。（2 か所）（図 7）
4. 仮締めした側の取付ねじを締め切ってください。（図 7）

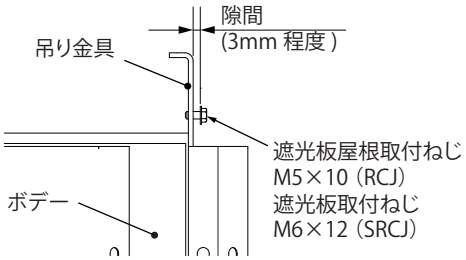


図5

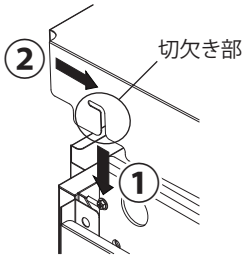


図6

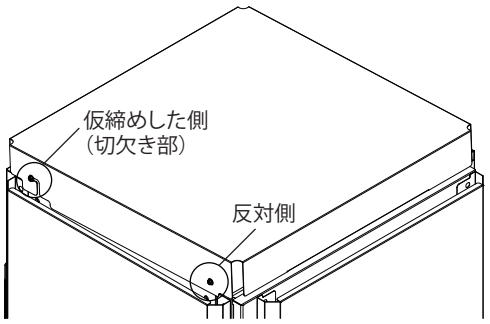


図7

⚠注意

使用するねじなどは指定されたものを使用してください。
取り付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。
締め付けが不十分な場合、破損・落下、所定の IP 性能が得られないおそれがあります。また、締め付け過ぎの場合は、製品を破損させる原因になります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m※
遮光板屋根取付ねじM5×10	1.8～2.9
遮光板取付タッピンねじM6×14	2.9～4.4
遮光板取付ねじM6×12	

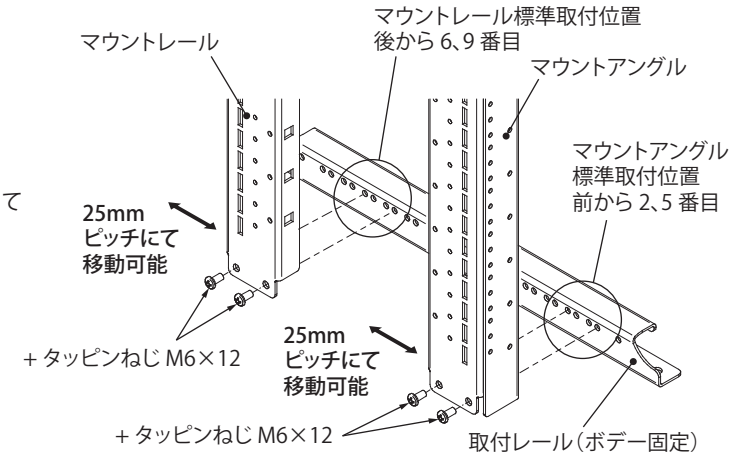
※ ただし、タッピンねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りではありません。

■マウントアングル・マウントレールの前後移動について

●移動方法

1. + タッピンねじ M6×12 を取り外してください。
2. マウントアングル、マウントレールを移動させたい方向に
   25mm ピッチにて移動してください。
3. + タッピンねじ M6×12 で取り付けてください。

ご注意
マウントアングル、マウントレールは同じ間隔を保って移動してください。ラックオプションの取り付けができなくなります。



⚠注意

使用するねじなどは指定されたものを使用してください。
取り付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。
締め付けが不十分な場合、破損・落下、所定の IP 性能が得られないおそれがあります。また、締め付け過ぎの場合は、製品を破損させる原因になります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m※
+タッピンねじM6×12	2.9～4.4

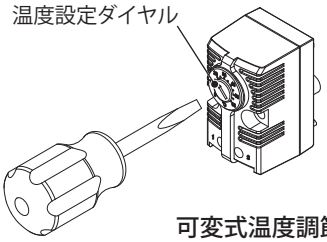
※ただし、タッピンねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りではありません。

■可変式温度調節器ユニットタイプ（PTV-M61AU）

ファンは、可変式温度調節器により自動運転制御しており、キャビネット内部温度が設定温度になると運転を開始します。

●温度設定方法

- 可変式温度調節器の温度設定ダイヤルを回すことにより、ファンの運転開始温度設定が変更可能です。
- 温度設定をする際は、マイナスドライバーなどの工具を使用してください。
- 温度設定ダイヤルのずれ防止のため、0℃から右回転にて温度設定してください。

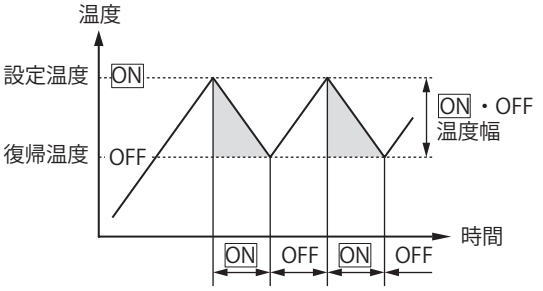


可変式温度調節器

ご注意
- 出荷時の温度設定ダイヤルは、40℃に設定されています。
  運転前に温度設定ダイヤルの設定値（出荷時 40℃）を確認してください。
- 温度設定ダイヤル部を強く押さえると内部機器が変形し、誤動作や性能を満足しないおそれがあります。
- 温度設定ダイヤルの可動部はねじ機構となっているため、ねじの遊びにより設定温度付近で逆回転させた場合、位置が若干ずれるおそれがあります。
- 温度設定ダイヤルは 5℃刻みで表示してありますが、温度設定作業により動作温度のずれが発生しますので、温度公差とは別に温度設定誤差が約 ±1K（℃）（参考値）生じることがあります。
- 温度設定ダイヤルを設定するときは、ゆっくり確実に回してください。
  ダイヤルに傷が付くおそれがあります。
- 温度設定は 0℃以下、60℃以上に振り切らないようにご注意ください。

●動作

可変式温度調節器の近傍温度が設定温度まで上がるとファンに通電（ON 状態）され、設定温度より約 7K(℃) 下がると停止（OFF 状態）します。



ご注意
本製品との組み合わせで漏電ブレーカが誤動作する場合があります。
その場合はスパークキラーなどを用いて対策してください。

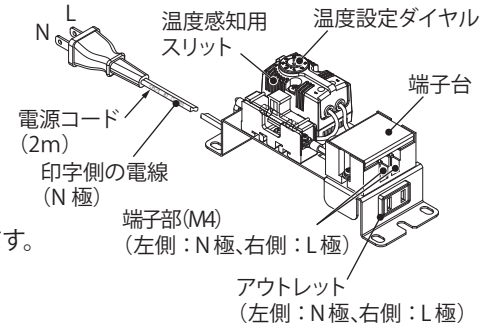
●故障と判断される前に

次の項目を調べてください。

ご注意 確認は電源コードを抜き、通電していない状態で行ってください。

【導通確認】

1. 端子台の端子部 L 極（またはアウトレットの L 極）と電源コードの L 極にテスターなどを接触させてください。
2. 温度設定ダイヤルを 0℃→60℃または 60℃→0℃に回転させたときの導通を確認します。何度か回転させても導通がない場合、接点間に異物が挟まっているおそれがあります。温度感知用スリットに圧縮空気を吹き付けてください。
   それでも導通がない場合、ヒューズが溶断しているか、故障しているおそれがあります。
3. 同様に N 極についても導通を確認してください。

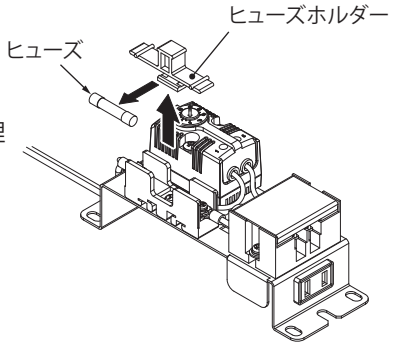


【ヒューズの確認】

ヒューズを取り外し、溶断していないか確認してください。

ヒューズが溶断している場合

本製品のヒューズが溶断している場合は、その原因に対する処置を確実に行った上、付属のヒューズ（予備）に交換してください。
（通常の使用状態でヒューズが溶断して本製品の運転が停止した場合は、お客様による修理は絶対に行わず、直ちにお買い上げいただいた販売店または弊社営業所にご連絡ください。）



ヒューズの交換方法

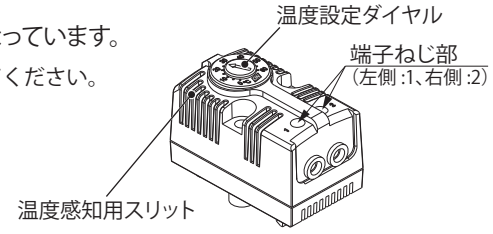
1. ヒューズホルダーのつまみを手前に引き、ヒューズホルダーを取り外してください。
2. ヒューズを交換してください。
3. ヒューズホルダーを元の位置に戻してください。

【接点方式の確認】

次の手順で a 接点の確認を行います。

1. 可変式温度調節器の端子ねじ部（1、2）にテスターなどを接触させてください。
2. 温度設定ダイヤルを 0℃に設定します。このとき端子間は導通があり ON 状態となっています。

   ご注意 本体近傍の温度が氷点下の場合、導通がない場合があります。常温で確認してください。
3. 温度設定ダイヤルの設定を 0℃からゆっくり温度を上げます（右に回す）。
   本体近傍温度＋約 7℃で導通がなくなり OFF 状態となります。
4. OFF 状態より温度設定ダイヤルの温度をゆっくり下げます（左に回す）。
   本体近傍温度付近で再び ON 状態となります。



■換気扇付ステンレス製ルーバーの保守点検

保守点検時は、ファン動作を点検する場合を除き必ず電源を OFF にし、ファンの羽根の回転が停止してから行ってください。

●フィルターの交換方法

フィルターは定期的に交換または清掃を行ってください。
フィルターは 1 か月に 1 度以上清掃し、1 年間使用したものは交換することをおすすめします。
なお、交換用フィルターはオプション部品より別途ご用命ください。(P12.「■オプション」を参照)

【キャビネット外側から交換する場合】(図 8)

1. 遮光板を取り外してください。(P.8「■遮光板の取外方法」を参照)
2. ルーバー取付ねじ M4×8 を取り外してください。
3. ルーバーを上側へスライドさせて取り外してください。
4. サブルーバーを上側へスライドさせて取り外してください。
5. フィルターを取り外し、新しいフィルターと交換してください。
6. 逆の手順にて、サブルーバー・ルーバー・ルーバー取付ねじをドアに取り付けてください。

ご注意
・ルーバー取付ねじを紛失しないよう注意してください。
・サブルーバーは裏表を確認の上、ルーバーの膨らみがキャビネット外側向きになるように取り付けてください。
・ルーバー、サブルーバーの突起部をケースの引掛部に挿入して取り付けてください。

【キャビネット内側から交換する場合】

1. ファン付の場合、ファン取付ねじ M4×50 を取り外し、ファンとフィンガーガードを取り外してください。(図 9)
2. ケースの開口部よりフィルターを取り外し、新しいフィルターと交換してください。
3. 逆の手順にて、ファン・フィンガーガード・ファン取付ねじを取り付けてください。

ご注意 フィルターを取り付ける際は、フィルターに膨らみやしわが生じないよう、ケースの隅まで均一に取り付けてく ださい。

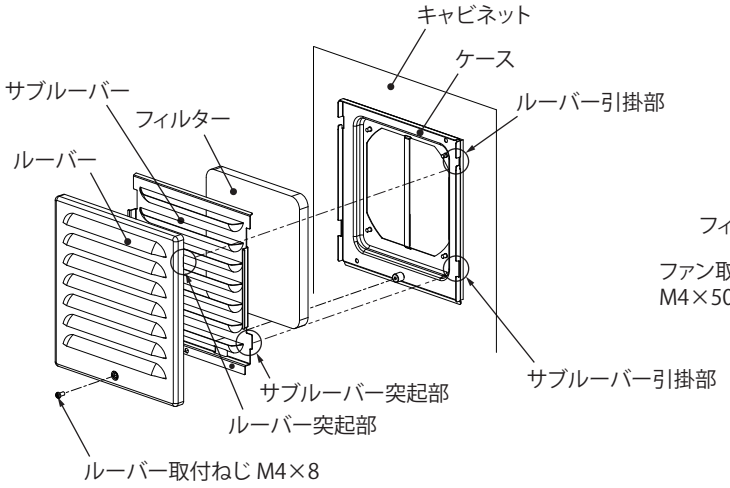


図8 キャビネット外側交換

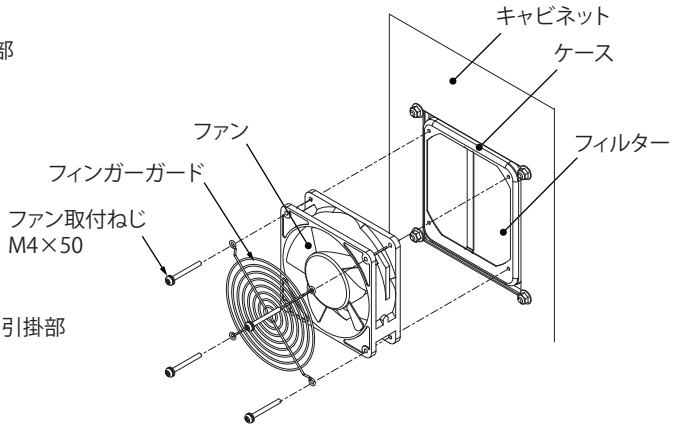


図9 キャビネット内側交換

⚠注意

使用するねじなどは指定されたものを使用してください。取り付けの際は、
適正締付トルクにて締め付けてください。締め付けが不十分な場合、
破損・落下、所定の IP 性能が得られないおそれがあります。
また、締め付け過ぎの場合は、製品を破損させる原因になります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m
ルーバー取付ねじ M4×8	1.5〜1.8
ファン取付ねじ M4×50	

●フィルターの清掃方法

以下のいずれかの方法にてフィルター清掃を行ってください。

・圧縮空気による吹き付け。
・掃除機による清掃。
・水槽内での押し洗い。
1. 中性洗剤 5%、湯 95%（湯は約 40℃）の溶液を準備してください。
2. フィルターを溶液の中に 24 時間浸漬してください。
3. 溶液の中で、手で押しながら洗ってください。
4. 溶液からフィルターを取り出し、清水ですすいでください。
5. フィルターを自然乾燥させてください。

●ファンの交換方法

ファンは寿命がありますので定期的に交換を行ってください。
ファンを交換する目安は、常温の連続運転で約 40,000 時間（約 4 年半）です。

ご注意
ファンの風向に注意してください。風向、羽根の回転方向はファン側面に表示してあります。
なお、交換用ファンはオプション部品より別途ご用命ください。

■オプション

●交換用フィルター

品名記号	外形寸法 mm			材質	除塵率 %	セット内容
	ヨコ	タテ	フカサ			
SLS-F17R	123	137	14	ポリエステル	80	5 枚入

●交換・後付用ファン（防湿タイプ）

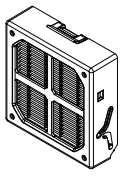
品名記号	外形寸法 mm			定格電圧 単相 V	入力端子	セット内容
	ヨコ	タテ	フカサ			
PF-125H-M	119.5	119.5	38	AC100	リード線(1m)	1 コ

■推奨品

【塩害用フィルターケース】

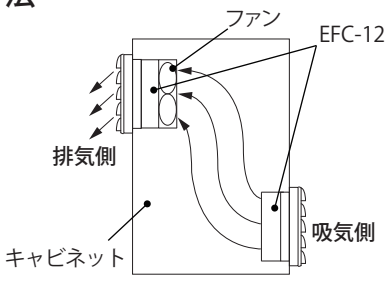
キャビネット内に吸気される塩分対策用にご利用ください。

品名記号	外形寸法 mm			除塵率 %	セット内容
	ヨコ	タテ	フカサ		
EFC-12	126	126	38	約 90	1 コ



EFC-12

適切な使用方法



吸気側と排気側ルーバーの両方に本製品を取り付け、排気側にファンを取り付けてください。

ご注意
・ファン停止の際は、塩分が入りやすくなりますので、排気側にも本製品を取り付けてく ださい。
・ファンを吸気用として本製品と組み合わせて使用しないでください。本製品の直近で風を吸い込むと塩害用フィルターに蓄積された塩分がキャビネット内に入り込むおそれがあります。

お問合わせ先

ご不明な点がありましたら弊社お客様相談センターにお問合わせください。

TEL（0561）64-0152

〈受付時間〉9：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00（土・日・祝日は休み）

・お客様からご提供いただいた個人情報は、商品の修理やご相談への対応、および情報の提供に利用いたします。
・利用目的の範囲内で、グループ各社と共同で利用させていただく場合があります。
・個人情報はあらかじめ本人の同意を得ないで、第三者に提供することはいたしません。

本製品の故障や瑕疵により、当社の予見の有無を問わず生じた二次損害について、当社は一切の責任を負いかねます。
仕様など、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

2026年7月
B929107921
SK-125G

©NITTO KOGYO CORPORATION

日東工業株式会社
〒480-1189 愛知県長久手市蟹原 2201 番地